

2012年3月期 第2四半期 決算説明会



2011年11月8日

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

0

[はじめに]

- 2012年3月期 第2四半期決算の概要と今年度の見通しおよび今後の事業戦略についてご説明いたします。

2011年度上期 連結業績

(百万円)

	2012年3月期 上期実績	2011年3月期 上期実績	増減率
売上高	103,703	109,792	(5.5%)
デバイス事業	91,161	96,316	(5.4%)
システム事業	12,541	13,476	(6.9%)
売上総利益	8,082	8,070	+0.1%
販管費	7,488	7,095	+5.5%
営業利益	593	974	(39.1%)
経常利益	347	530	(34.5%)
四半期純利益	131	49	+167.3%

www.marubun.co.jp

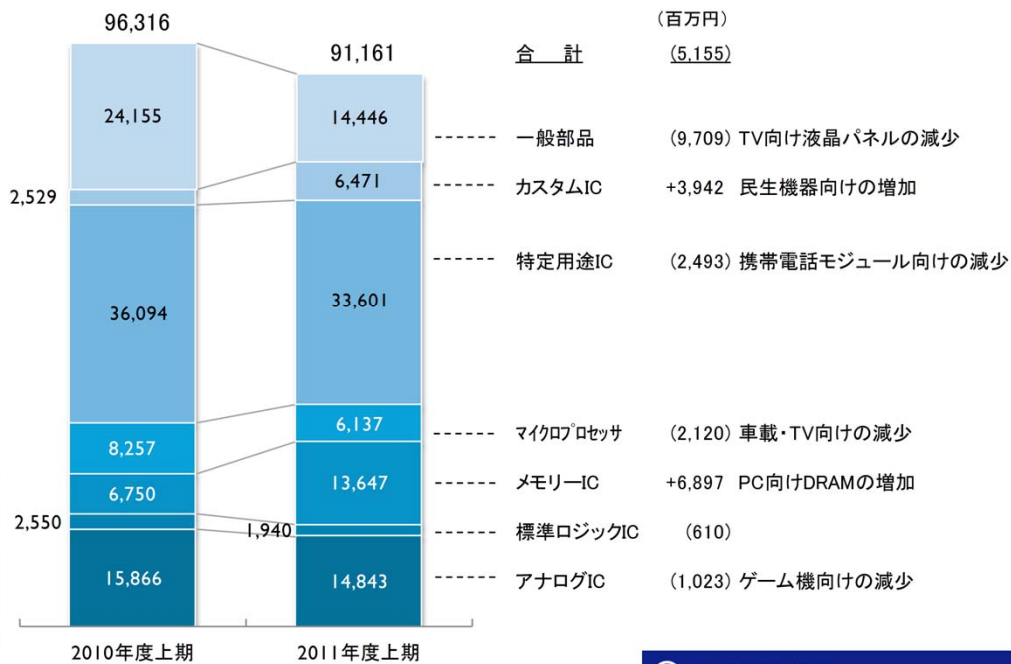
丸文株式会社

1

[2011年度上期 連結業績]

- まず、第2四半期決算の概要につきましてご説明いたします。
- 当上半期は、東日本大震災の影響によるサプライチェーンの混乱により、自動車向けやOA機器向けの半導体の受注が低迷し厳しいスタートとなりました。しかし、その後は部材確保の動きが広がり、第2四半期以降は昨年並みの水準で推移しました。
- その結果、当第2四半期の連結売上高は、前年同期に比べ5.5%減の1,037億円となりました。
- 売上総利益は、商品全般にわたる利益率の改善により、前年同期並みの80億円を確保しました。
- 一方、営業利益は、販管費が4億円増加した結果、39.1%減の5億円、経常利益は、34.4%減の3億円となりました。

デバイス事業 品目別売上高実績



www.marubun.co.jp

丸文株式会社

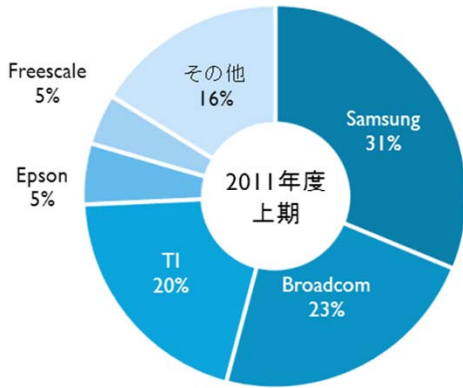
2

[デバイス事業 品目別売上高実績]

- 次に、売上の増減要因について事業セグメント別にご説明いたします。
- まず、デバイス事業の売上ですが、前年同期に比べ5.4%減の911億円となりました。
- 品目別の売上はご覧の通りです。
- メモリーICの増加は、PC向けの大型商談やユニーデバイス社からの事業譲受けに伴う商権の拡大によるものです。
- マイクロプロセッサは、震災の復興需要により産業機器向けでは増加しましたが、部材不足のあおりを受けて、車載やOA機器向けが減少しました。
- 特定用途ICは、携帯電話モジュールやTV向けが減少しました。
- カスタムICの増加は、民生機器向けのASICが立ち上がったことによるものです。
- 一般部品は、デジタルカメラ向けの液晶パネルが増加したものの、テレビ及びパソコン向けの液晶パネルが大幅に減少しました。

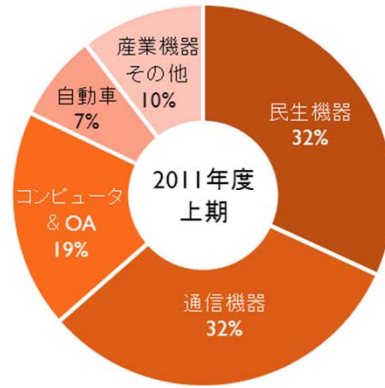
デバイス事業の仕入先別/用途別売上高

仕入先別売上高



2010年度上期	売上高 (%)
Samsung	27%
Broadcom	24%
TI	24%
Epson	5%
Freescale	5%

用途別売上高



2010年度上期	用途	売上高 (%)
	民生機器	37%
	通信機器	30%
	コンピュータ&OA	14%
	自動車	8%
	産業機器,その他	11%

丸文株式会社

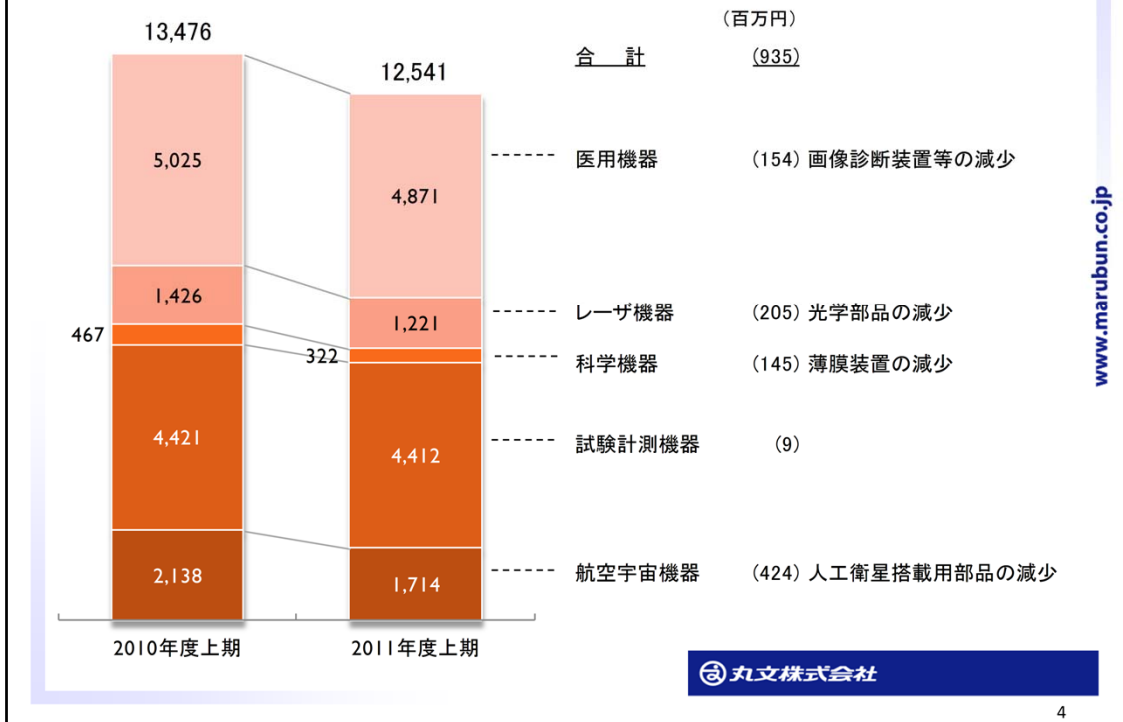
www.marubun.co.jp

3

[デバイス事業の仕入先別/用途別売上高]

- 次に仕入先別の売上についてですが、主力の3社の売上構成比は前年同期並みの74%になりました。
- サムスン電子は、ユニーデバイス社から事業を譲り受けたことにより売上構成比が31%に増加しました。
- ブロードコムは、通信用ICの需要が減少しました。
- また、TIも車載やテレビ、ゲーム機向けが減少したことにより、売上構成比が20%となりました。
- 用途別では、民生機器が32%、通信機器が32%の売上構成比となりました。
- 通信機器は、携帯電話モジュール向けが減少しましたが、通信データ量の増大に対応する高速通信インフラ向けで売上が増加しました。
- 一方、民生機器については、デジタル放送向け需要の終息や欧米での消費低迷により、テレビ向けが大幅な減少となりました。

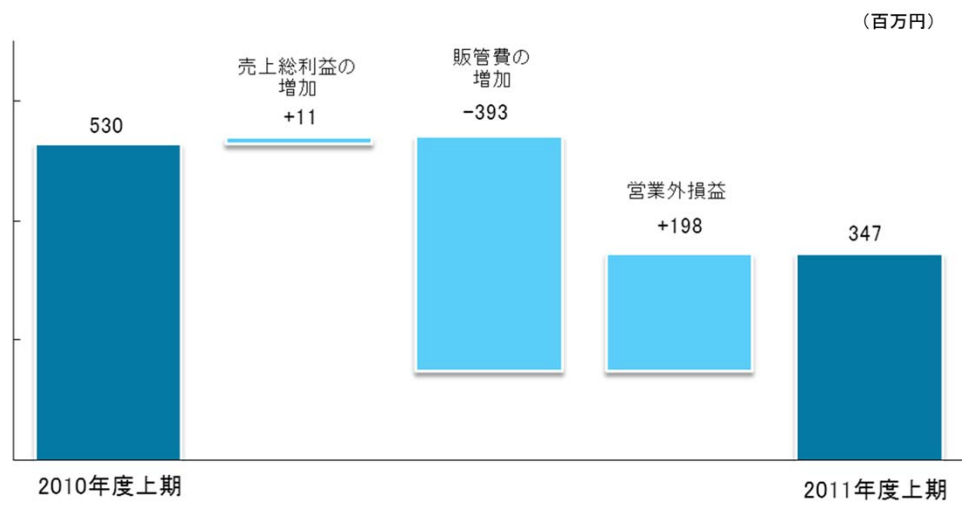
システム事業 品目別売上高



[システム事業 品目別売上高]

- 次にシステム事業ですが、売上は前年同期に比べ6.9%減の125億円となりました。
- 航空宇宙機器は、人工衛星用部品などが減少しました。
- 試験計測機器は、実験・研究用の計測機器が減少したものの、電子部品向けの検査装置や半導体のX線検査装置が増加し、前年同期並みとなりました。
- 科学機器は、LEDやパワーデバイス製造用のMOCVD装置が減少しました。
- 医用機器の減少は、画像診断機器の減少によるものです。

経常利益の増減要因



【売上総利益】 売上総利益率 2010年度 上期 7.4% → 2011年度 上期 7.8%
【販 管 費】 退職給付費用の増加、ユニーデバイス社からの事業譲受けによる増加
【営業外損益】 為替差損 2010年度 上期 293 → 2011年度 上期 67

丸文株式会社

5

[経常利益の増減要因]

- 続きまして、経常利益の増減要因についてご説明いたします。
- まず、売上総利益についてですが、前年同期並みの80億円となりました。
- 売上総利益率は、前年同期の7.4%から7.8%に改善しました。
- 販管費については、丸文単体における退職給付費用の増加や、丸文セミコンでの事業譲受けによる人件費や経費の増加により、4億円の増加となりました。
- 営業外損益は、為替差損が前年同期の2億9千万円から6千万円へと減少しました。
- 以上の結果、経常利益は3億4千万円となりました。

連結貸借対照表

(百万円)	2011年9月	2011年3月	増減額
流動資産合計	108,510	95,280	13,230
現金及び預金	9,943	16,330	(6,387)
受取手形及び売掛金	57,553	46,599	10,954
商品及び製品	36,726	29,024	7,702
仕掛品	23	9	14
繰延税金資産	1,119	1,228	(109)
その他の流動資産	3,183	2,116	1,067
貸倒引当金	(39)	(29)	(10)
固定資産合計	11,142	11,274	(132)
資産合計	119,652	106,554	13,098
流動負債合計	78,771	65,660	13,111
支払手形及び買掛金	42,366	32,478	9,888
短期借入金	13,617	10,660	2,957
1年内返済予定の長期借入金	20,034	20,034	0
1年内償還予定の社債	48	48	0
賞与引当金	774	744	30
その他の流動負債	1,929	1,693	236
固定負債合計	5,154	5,280	(126)
社債	46	70	(24)
長期借入金	2,589	2,606	(17)
その他の固定負債	2,519	2,604	(85)
負債合計	83,925	70,940	12,985
純資産合計	35,726	35,613	113
負債純資産合計	119,652	106,554	13,098

資産

- ・ 受取手形及び売掛金
10,954百万円増加
- ・ 商品及び製品
7,702百万円増加

負債

- ・ 仕入債務9,888百万円増加
- ・ 短期借入金2,957百万円増加

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

6

[連結貸借対照表]

- ・ 次に貸借対照表の主要科目についてご説明いたします。
- ・ 総資産は、流動資産の増加によって、前年末に比べ131億円の増加となりました。
- ・ 流動資産は、現預金が減少する一方、売上債権や在庫が増加しました。在庫の増加は、事業譲受けに伴いユニーデバイス社の在庫を引き継いだことによるものです。
- ・ 負債につきましては、仕入債務や短期借入金の増加により、前年度末に比べ129億円増加しました。

連結キャッシュフロー計算書

(百万円)	2012年3月期 上期実績	2011年3月期 上期実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	(3,103)	(5,503)	2,400
税引前当期純利益	390	351	39
減価償却費	252	310	(58)
持分法による投資損益	(31)	(50)	19
売上債権の増減額	(11,070)	(5,636)	(5,434)
たな卸資産の増減額	(1,856)	(1,746)	(110)
仕入債務の増減額	10,024	(103)	10,127
その他	(344)	1,790	(2,134)
小計	(2,635)	(5,084)	2,449
利息及び配当金の受取額	32	39	(7)
利息の支払額	(263)	(284)	21
法人税等の支払額	(279)	(276)	(3)
法人税等の還付額	42	103	(61)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(6,084)	(27)	(6,057)
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,739	(3,268)	6,007
現金及び現金同等物の期末残高	9,443	15,303	(5,860)

営業キャッシュ・フロー

- ・ 仕入債務の増加
- ・ 売上債権、在庫の増加

投資キャッシュ・フロー

- ・ 事業譲受けによる支出
5,777百万円

財務キャッシュ・フロー

- ・ 短期借入金の純増
3,005百万円

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

7

[連結キャッシュフロー計算書]

- ・ 次に、キャッシュフローの状況についてですが、当第2四半期の営業キャッシュフローは、31億円の資金の流出となりました。
- ・ これは、仕入債務が増加した一方で、売上債権と在庫が増加したことによるものです。
- ・ 投資キャッシュフローには、事業譲受けによる支出57億円が含まれております。
- ・ 財務キャッシュフローは、短期借入金の純増などにより27億円の資金の流入となりました。
- ・ 以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は94億円となりました。
- ・ 以上、貸借対照表およびキャッシュフローの状況をご説明いたしました。

2011年度 連結業績予想

(百万円)

	2012年3月期 予想	2011年3月期 実績	増減率
売上高	243,500	210,455	+15.7%
デバイス事業	207,570	177,713	+16.8%
システム事業	35,930	32,742	+9.7%
売上総利益	18,900	17,033	+11.0%
販管費	15,650	14,278	+9.6%
営業利益	3,250	2,754	+18.0%
経常利益	2,800	2,217	+26.3%
当期純利益	1,200	577	+108.0%

www.marubun.co.jp

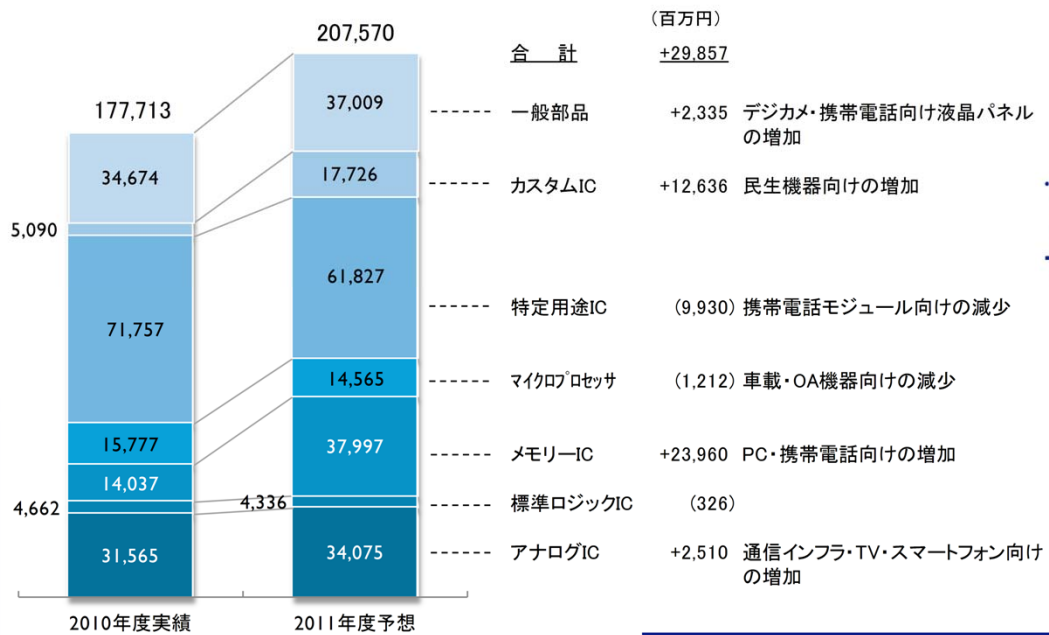
丸文株式会社

8

[2011年度 連結業績予想]

- 次に今年度通期の見通しについてご説明いたします。
- 下期は、為替の変動やタイの洪水の影響など、厳しい事業環境が予想されますが、商権の拡大やスマートフォン向けビジネスの伸長などが見込まれるため、通期の業績は、5月9日に公表した業績予想を据え置きました。
- 連結売上高は、前年度に比べ15.7%増の2,435億円を見込んでおります。
- 営業利益は18.0%増の32億円、経常利益は26.3%増の28億円となる見込みです。

デバイス事業 品目別売上高予想



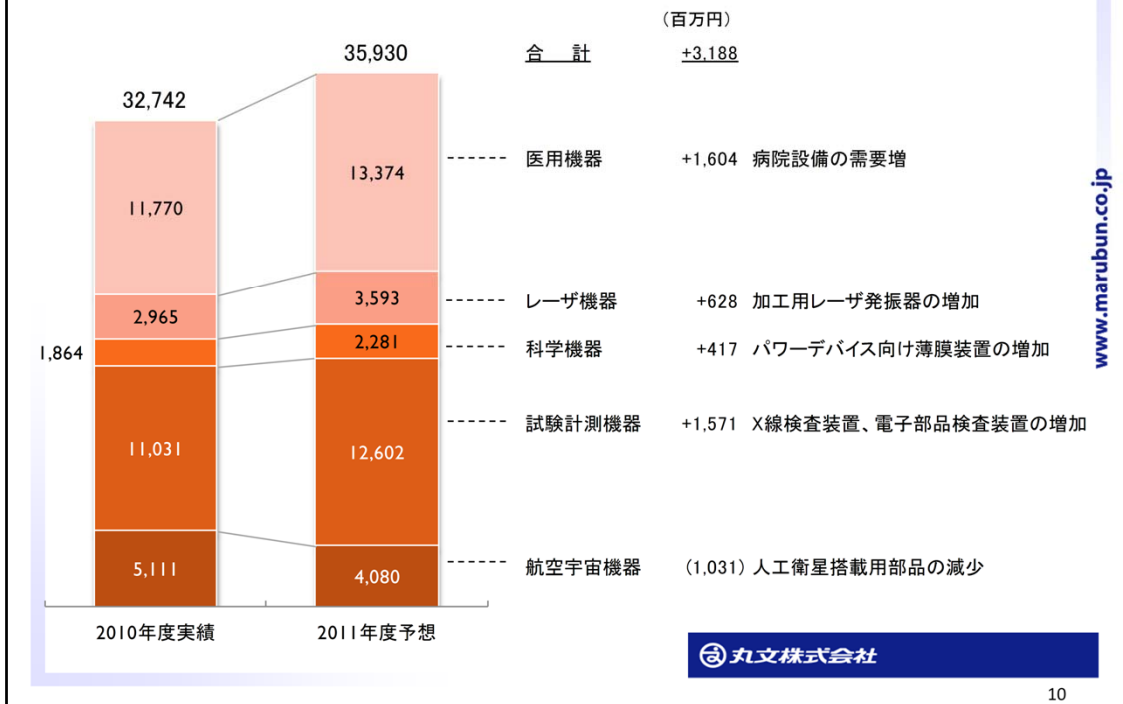
丸文株式会社

9

[デバイス事業 品目別売上高予想]

- 次に事業セグメント別の売上見通しについてご説明いたします。
- まず、デバイス事業についてですが、サムスンビジネスでの大幅な増加を見込み、通期の売上高は299億円増加の2,076億円を予想しております。
- アナログICは、通信インフラやスマートフォン向けの需要増により、25億円の増加となる見込みです。
- メモリーICの増加は、PCや携帯電話向けの増加によるものです。
- マイクロプロセッサは、車載やOA機器向けで減少を見込んでおります。
- 特定用途ICは携帯電話モジュール向けICの減少を、カスタムICは民生機器向けASICの増加をそれぞれ見込んでおります。

システム事業 品目別売上高予想



[システム事業 品目別売上高予想]

- 次にシステム事業についてですが、上期に受注が好調だった試験計測機器を中心に前年度に比べ31億円の売上の増加を見込んでおります。
- 航空宇宙機器は、人工衛星用部品が減少する見込みです。
- 試験計測機器は、電子部品向け検査装置や半導体のX線検査装置の販売で、15億円の増加を見込んでおります。
- レーザ機器は、熱加工用レーザ発振器の増加を見込んでおります。
- 医用機器については、画像診断装置や人工透析機器が増加する見込みです。

デバイス事業戦略

商権拡大と海外強化による売上・利益の向上

■ ベースビジネスの拡大

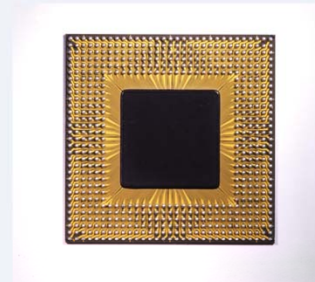
- 主力サプライヤの商権拡大の推進
- 営業拠点の積極展開
 - 5月浜松・広島、10月石川に開設
- サムスン事業の拡大
 - 民生機器や通信機器向け顧客の拡大

■ 新規商材の開拓

- 高付加価値でユニークなラインナップを開発中
 - Ritfast社タッチパネル: スマートフォンで本格採用
 - TriQuint社高周波半導体: LTE、スマートフォン向けで採用増加
 - カスタム製品のラインナップを増強

■ 海外ビジネスの強化

- 現地FAEによるデザイン・イン機能の強化
- グローバルな人材育成に注力



Open-Silicon社のテクノロジーを使ったASIC製品

www.marubun.co.jp

丸文株式会社

11

[デバイス事業戦略]

- デバイス事業は、2011年度を「中期的に飛躍するためのステップの年」と位置づけ、「ベースビジネスの拡大」と「新規商材の開拓」および「海外ビジネスの強化」に取り組んでおります。
- 1点目の「ベースビジネスの拡大」については、中長期の成長を見据え、商権の拡大に積極的に取り組んでおります。
- 当社の主力サプライヤにおける取扱いシェアを拡大すべく、お客様ならびに仕入先に対して様々な提案、アプローチを行っております。お客様へのサポート体制を強化するため、5月には浜松と広島、10月は石川に拠点を新設しました。
- また、子会社の丸文セミコンでは7月1日付けでユニーデバイス社から事業を譲り受け、サムスンビジネスの事業規模の拡大を図りました。
- 2点目の「新規商材の開拓」では、韓国サムスンSDI社のバッテリー製品と台湾RitFast社のタッチパネルの取扱いを開始するとともに、NexPower社の太陽光パネルの販売を推進しております。
- また、昨年販売を開始したTriQuint社の高周波半導体は、LTEなどの高速通信インフラやスマートフォンへの採用が進んでおります。
- そのほか、カスタム製品では、昨年度からREP活動を開始していた大規模ASICベンダーのOpen-Silicon社と代理店契約を締結、デザイン活動を進めております。当社では今後もユニークな特徴をもったカスタム製品の拡充を進めていきたいと考えております。
- 最後に、3点目の「海外ビジネスの強化」についてですが、急速な円高の進行で、日本からアジア地域への生産移管がますます加速しております。
- このような環境に対して、昨年度から導入したグローバルアカウント制により、お客様の窓口を世界規模で一元化するとともに、現地FAEによるデザイン・イン機能の強化に取り組んでおります。
- またグローバルな人材の育成にも一層注力し、海外ビジネスの強化を進めてまいります。
- デバイス事業においては、取引先との関係強化により商権の拡大を図るとともに、海外ビジネスを一層強化し、グローバルに売上・利益の向上に取り組んでいきたいと考えております。

システム事業戦略

成長市場に密着した高収益ビジネスの展開

■ ターゲット市場での取り組み

半導体市場	<ul style="list-style-type: none">● パワーデバイス向けAixtron社CVD装置を拡販● 薄膜ウエハ検査装置の新規、リピートオーダー獲得に向け販売強化● 海外生産に対応したビジネスモデルを構築
自動車市場	<ul style="list-style-type: none">● HV、EV用パワーデバイスモジュールの接合・検査装置、電池製造用検査装置の販売を展開
情報通信・セキュリティ市場	<ul style="list-style-type: none">● レーザ発振器やセンサーモジュール製品のOEM供給を推進● 新規商材を拡充し、市場の開拓を推進

■ サテライトオフィスの検討

- 九州・東海地方の半導体、自動車業界をターゲットに潜在需要を掘り起こし

丸文株式会社

12

www.marubun.co.jp

[システム事業戦略]

- システム事業は、プロジェクトオリエンテッドの体制のもと、成長市場に密着し、高収益を目指した事業展開を行っております。
- 注力市場別に、現在の取り組み状況についてご説明いたします。
- まず「半導体市場」ですが、パワーデバイス向けでAixtron社のCVD装置の拡販を進めております。
- 薄膜ウエハの検査装置については新規採用に加え、リピートオーダーも活発化してきており、期待ができる状況にあります。
- また、お客様の海外生産移管に対応し、当社でも製造装置や搬送装置で、海外展開を開始いたしました。
- 海外工場のアカウントを獲得し、すでに受注・売上に貢献しております。
- 次に「自動車市場」ですが、ハイブリッド車や電気自動車向けパワーデバイスモジュールの接合装置や検査装置、電池製造向けの検査機器を販売しております。
- 震災の影響により設備投資が後倒しになるなど期初の想定より厳しい状況が続いておりますが、早期の受注取り込みに向け、提案活動を一層強化していきたいと考えております。
- 3点目の「情報通信・セキュリティ市場」については、OEMビジネスを推進しております。
- パートナー企業と協業し、レーザ発振器やハイエンドのセンサーモジュール製品をOEMで供給していく計画です。
- 新規商材の取扱いも進めながら、市場の開拓を進めてまいります。
- 以上の市場別の取り組みに加え、システム事業ではお客様により密着した営業活動を展開するため、サテライトオフィスの設置を検討しております。九州や東海地方の半導体、自動車業界のお客様をターゲットに、潜在需要の掘り起こしを進めていきたいと考えております。
- システム事業では、お客様のニーズに対応した最適な商品の開発、提案を行うことにより、他社との差別化を図り、事業の安定化と収益性の向上に取り組む方針です。

株主還元

- 配当予想

	2011年3月期	2012年3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	11円	12円
中間配当	5円	5円
期末配当	6円	7円

www.marubun.co.jp

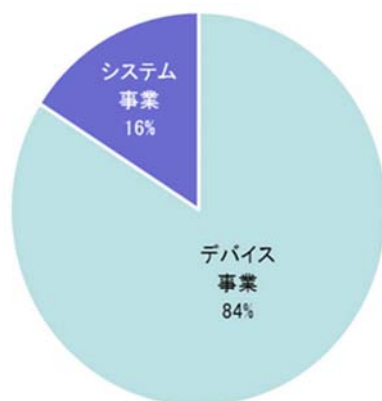
[株主還元]

- 最後に、株主の皆様への利益還元についてですが、期初の計画通り、中間配当5円、期末配当 7円、合わせて年間で12円を予定しております。
- 今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。

丸文について

会社概要

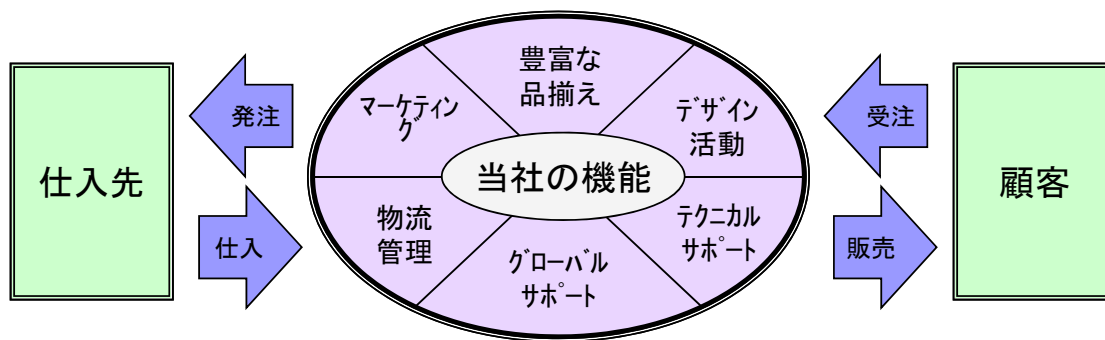
- 設立 : 1947年7月
- 資本金 : 6,214 百万円
- 事業内容 : 最先端エレクトロニクス機器・部品の販売
- 本社所在地 : 東京都中央区日本橋大伝馬町8-1
- 連結売上高 : 210,455 百万円 (2010年度)
- 従業員数 : 1,302人(2010年度)



セグメント別
売上構成比

デバイス事業の特徴と強み

- 800社を超える顧客基盤
- TI・Samsung・Broadcom等の有力仕入先と幅広い商品群
- 商品提案からハード/ソフト開発、回路設計までの技術サポート
- Arrow社との提携によるグローバル販売ネットワーク

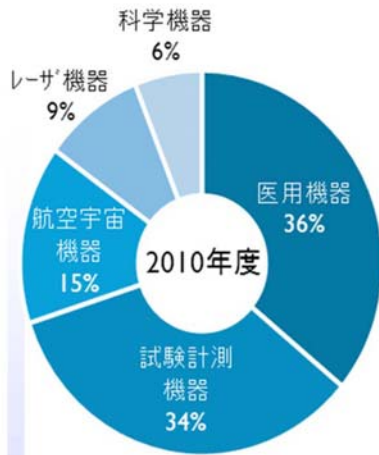


デバイス事業の主要取扱い商品

	Application						Supplier												
	Communication Equipment	Consumer Equipment	Computer & OA	Automobile	Industrial Equipment	Asahi Kasei Microdevices	Broadcom	Emerson	Epson Toyocom	Freescala	International Rectifier	Maxim	Tiquest	On Semiconductor	Samsung	Seiko Epson	Texas Instruments	Zoran	
半導体																			
アナログIC	Analog	●	●	●	●	●				●		●	●	●				●	
	Discrete		●			●				●	●			●					
標準ロジックIC		●	●	●	●								●				●		
メモリーIC	DRAM		●	●											●				
	Flash		●												●				
マイクロプロセッサ	MPU, MCU	●		●	●					●							●		
	DSP	●	●		●	●				●							●		
特定用途IC	ASSP	●	●		●		●	●		●			●			●	●	●	
	Display Driver	●	●												●	●			
	DMD			●		●											●		
	LED		●												●				
カスタムIC	●	●	●	●										●	●	●			
一般部品																			
液晶パネル	●	●	●		●										●				
水晶デバイス	●	●		●	●				●										
ノートコンピュータ					●		●												

システム事業の特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据付保守まで一貫した高レベルの技術サポート



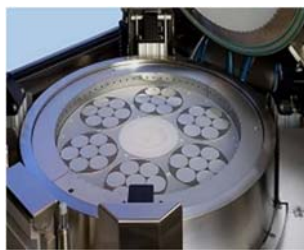
分野	主要取扱商品	主要仕入先
医用機器	画像診断機器	島津製作所、シーメンス旭メディテック、コカヘルタルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成クレメディカル、カネカメディックス
試験計測機器	検査装置・試験計測器	島津製作所、ユニハイトシステム、アキム、Hilevel Technology
	製造装置・組立装置	セイコーエフソン、Aurigin Technology、日本アビオニクス
航空宇宙機器	高信頼性部品、計測・センサ	Trident Plascore
	航空関連機器、高周波電子機器	AAI, CPI, L3 Communications
	レーザー光特性計測器・光学計測装置	Lavision LTB Lasertechnik
レーザー機器	半導体レーザー・レーザー加工機	Laserline, nLight, Laser Diode
	ネットワーク・光学部品	Symmetricom, Oplink, Santur, Exocelitas Technologies
科学機器	MOCVD装置、in-situモニタリングシステム	AIXTRON, LayTec

丸文株式会社

18

www.marubun.co.jp

システム事業の主要取扱い商品



Aixtron AG (ドイツ)
MOCVD装置



㈱ユニハイトシステム
X線検査装置



Symmetricom Inc. (米国)
ネットワークタイムサーバー



Chroma ATE, Inc. (台湾)
LEDインスペクションシステム



丸文株式会社
レーザーパターニング装置



㈱島津製作所
CTスキャンシステム

丸文株式会社

19

www.marubun.co.jp